

二種混合（ジフテリア・破傷風 DT）ワクチンの説明書

ジフテリアとは

ジフテリア菌の飛沫感染でおこります。1981 年に DPT ワクチンが導入され現在では患者発生数は年間 0 人が続いています。症状は、高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、嘔吐などで、偽膜と呼ばれる膜ができて窒息死することもあります。発病 2～3 週間には菌の出す毒素によって心筋障害や神経麻痺を起こすこともあるので注意が必要です。

破傷風とは

破傷風菌はヒトからヒトへ感染するのではなく、土の中にいる菌が傷口からヒトの体内に入ることによって感染します。菌が体の中で増えると、菌の出す毒素によって口が開かなくなったり、けいれんをおこすようになり、死に至ることもある病気です。患者の半数は自分でも気づかない程度の軽い傷が原因です。土中に菌がいるので、感染する機会は常にあります。

接種対象年齢

接種回数・間隔

【2 期】 11 歳以上 13 歳未満に、DT（ジフテリア・破傷風）二種混合ワクチンを 1 回。

幼児期に通常、四種または五種混合ワクチンとして計 4 回すでに接種しており今回 二種混合で免疫をつけます。

ワクチンの副反応

- 接種箇所が赤くなったり、腫れたり、しこりができたり、痛みを感じたりすることがあります。
 - 注射したところだけでなく、熱がでたり、刺激に反応しやすくなったりすることがあります。
 - 極めてまれに、ショック、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳症、けいれんなどが報告されています。
- 予防接種を受けたあと、副反応がおこった場合は医師の診察・治療を必ず受けてください。

受けることができない人

- 明らかに発熱している人（通常は 37.5℃を超える場合）
- 重い急性疾患にかかっている人
- このワクチンの成分によってアナフィラキシー（通常接種後 30 分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応）をおこしたことがある人
- その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた人

予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない人

- 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある人
- 過去に予防接種を受けたとき、接種後 2 日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状がみられた人
- 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある人
- 過去に免疫状態の異常を指摘されたことがある人、または近親者に先天性免疫不全症の方がいる人
- このワクチンに含まれる成分にアレルギーをおこすおそれのある人

ワクチン接種後の注意

- 接種後 30 分間は、ショックやアナフィラキシーがおこることがありますので、すぐ連絡がとれるようにしておきましょう。
- 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- 接種当日は過度な運動を控え、1 週間は体調に注意しましょう。
- 接種部位は清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は問題ありませんが、接種部位を強くこすることはやめましょう。
- 接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。